2021年3月期
第３四半期
業績概要

窪田　顕文

アンリツ株式会社
取締役
専務執行役員 CFO

2021年1月28日

東証第1部：6754
https://www.anritsu.com

envision : ensure

注 記

本資料に記載されている、アンリツの現在の計画、戦略、確信などのうち、歴史的事実でないものは将来の業績等に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。将来の業績等に関する見通しは、将来の営業活動や業績に関する説明における「計画」、「戦略」、「確信」、「見通し」、「予測」、「予想」、「可能性」やその類義語を用いたものに限定されるものではありません。実際の業績は、さまざまな要因により、これら見通しとは大きく異なる結果となりうることをご承知おきください。

実際の業績に影響を与えうる重要な要因は、アンリツの事業領域を取り巻く日本、米州、欧州、アジア等の経済情勢、アンリツの製品、サービスに対する需要動向や競争激化による価格下落圧力、激しい競争にさらされた市場の中でアンリツが引き続き顧客に受け入れられる製品、サービスを提供できる能力、為替レートなどです。

なお、業績に影響を与えうる要因はこれらに限定されるものではありません。また、法令で求められている場合を除き、アンリツは、あらたな情報、将来の事象により、将来の見通しを修正して公表する義務を負うものではありません。

Copyright© ANRITSU

目 次

Ⅰ．事業概要

Ⅱ．2021年3月期第３四半期　連結決算概要

Ⅲ．2021年3月期　通期業績予想（連結）

Ⅳ．当社の取組について

Copyright© ANRITSU

Ⅰ．事業概要

T&M事業

ネットワーク社会の進化・発展

- モバイル市場 ： 5 G, LTE
- ネットワーク・インフラ市場 ： 有線・無線NW
- エレクトロニクス市場 ： 電子部品、無線設備

PQA事業

食の安全・安心

- X線検査機
- 金属検出機
- 重量選別機

その他

- IPネットワーク機器
- 光デバイス

（セグメント別売上比率）　2020年3月期 実績（連結）： 1,070億円

T&M　70%			PQA	その他
モバイル	ネットワーク・インフラ	エレクトロニクス		
56%	25%	19%	21%	9%

（T&M事業 地域別売上比率）

日本	アジア他	米州	EMEA
22%	44%	22%	12%

T&M: Test & Measurement　　PQA : Products Quality Assurance

Copyright© ANRITSU

Ⅱ- 1. 連結決算概要 - 業績サマリー -

前年同期比増収、増益

（単位：億円）

国際会計基準(IFRS)	前第３四半期連結累計期間(4-12月)実績	当第３四半期連結累計期間(4-12月)実績	前年同期比増減額	前年同期比増減率(%)
受注高	826	798	△ 28	△3%
売上高	764	766	2	0%
営業利益	113	141	28	24%
税引前利益	112	139	27	24%
当期利益	83	105	22	26%
当期包括利益	79	105	26	32%

（注）値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）

Copyright© ANRITSU

Ⅱ- 2. 連結決算概要 - 事業別売上高・営業利益 -

T&M：5G商用化、データセンター需要が順調で増収増益

PQA：新型コロナウイルスの影響で減収も増益

（単位：億円）

国際会計基準(IFRS)		前第３四半期連結累計期間(4-12月)実績	当第３四半期連結累計期間(4-12月)実績	前年同期比増減額	前年同期比増減率(%)
T&M	売上高	542	544	2	0%
	営業利益	99	125	26	26%
PQA	売上高	159	153	△ 6	△3%
	営業利益	7	10	3	45%
その他	売上高	64	68	4	6%
	営業利益	13	11	△ 2	△15%
調整額	営業利益	△6	△6	0	-
合計	売上高	764	766	2	0%
	営業利益	113	141	28	24%

（注1）値はそれぞれの欄で四捨五入（前年同期比増減額を除く）

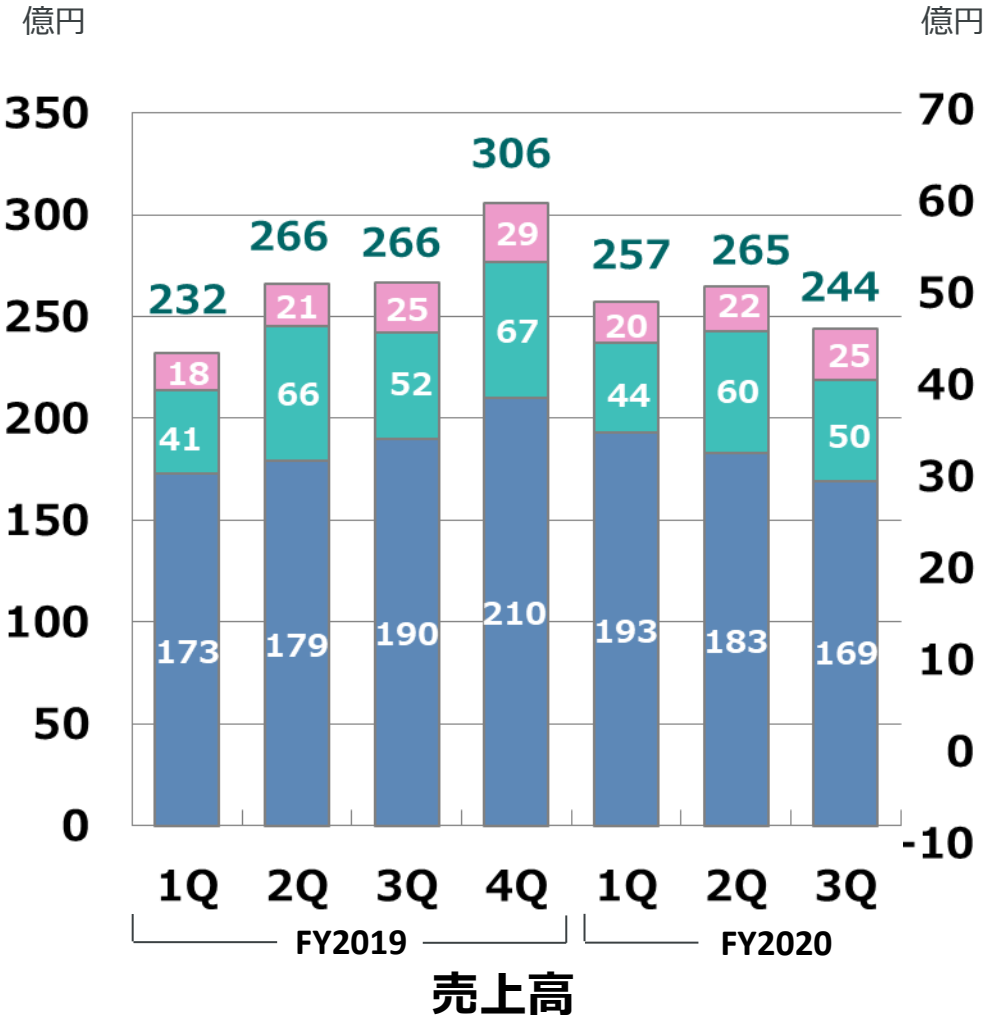
（注2）調整額にはセグメント間取引消去、各事業セグメントに配分していない全社費用が含まれています。

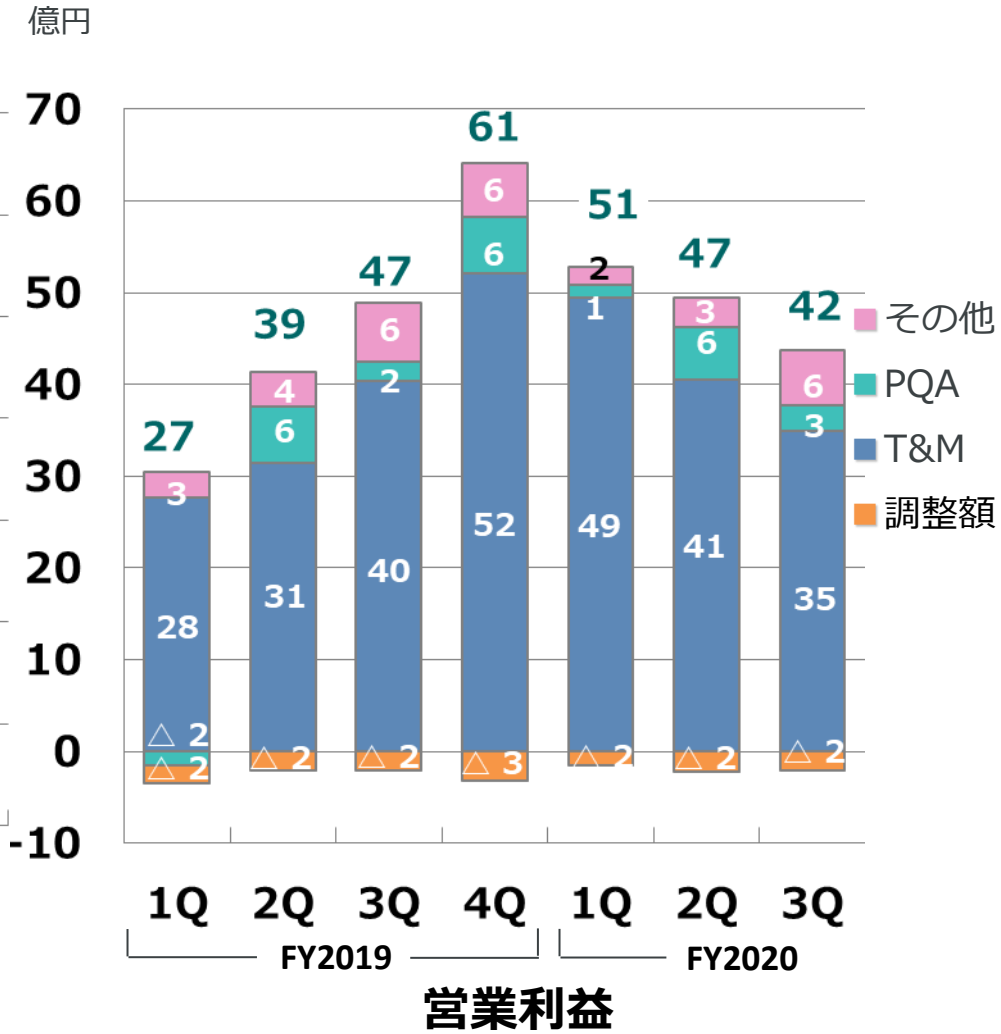
T&M: Test & Measurement　　PQA : Products Quality Assurance

Copyright© ANRITSU

Ⅱ- 3. 連結決算概要 - 四半期毎 売上高・営業利益 -

3Q(10-12月)営業利益率：連結17%, T&M21%, PQA5%





（注）値はそれぞれで四捨五入

Copyright© ANRITSU

Ⅱ- 4. 事業別営業概況

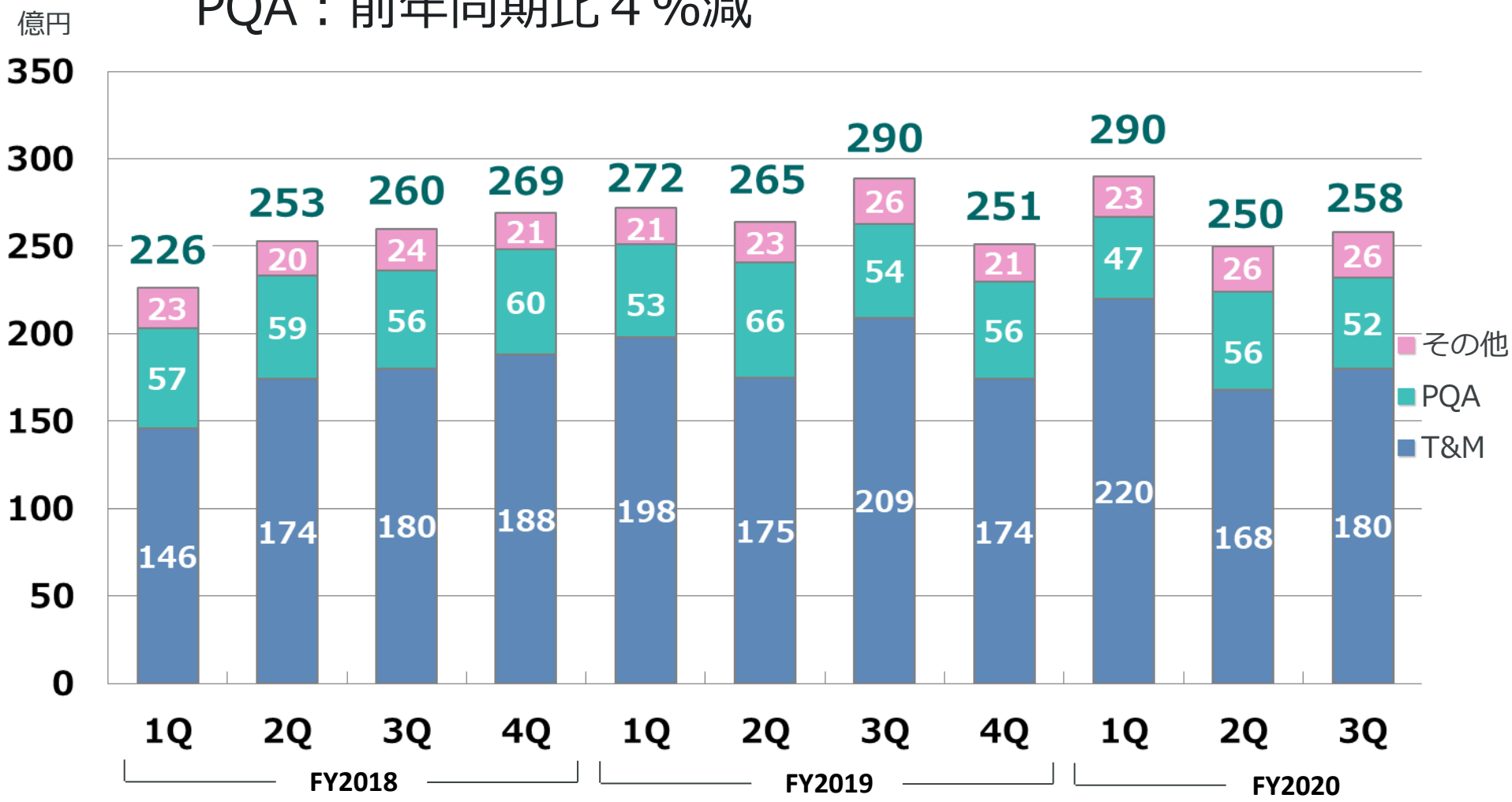
セグメント	2021年3月期第３四半期（4月-12月）の状況
T&M：5G商用化スケジュールおよび データセンター高速化が順調に進展	
モバイル	5G開発の需要が順調に推移
ネットワーク インフラ	データセンター等への投資が拡大
アジア他・日本	5G商用化に向けた投資拡大
米州	5Gサービスの今後のエリア拡充に注視
PQA：食品市場では新型コロナウイルス感染症拡大に伴う先行きの不透明感から一部の顧客が設備投資に慎重な姿勢	

T&M : Test & Measurement　PQA : Products Quality Assurance

Copyright© ANRITSU

Ⅱ- 5. 受注高推移

- T&M：前年同期比１４%減、前四半期比７%増
  PQA：前年同期比４%減

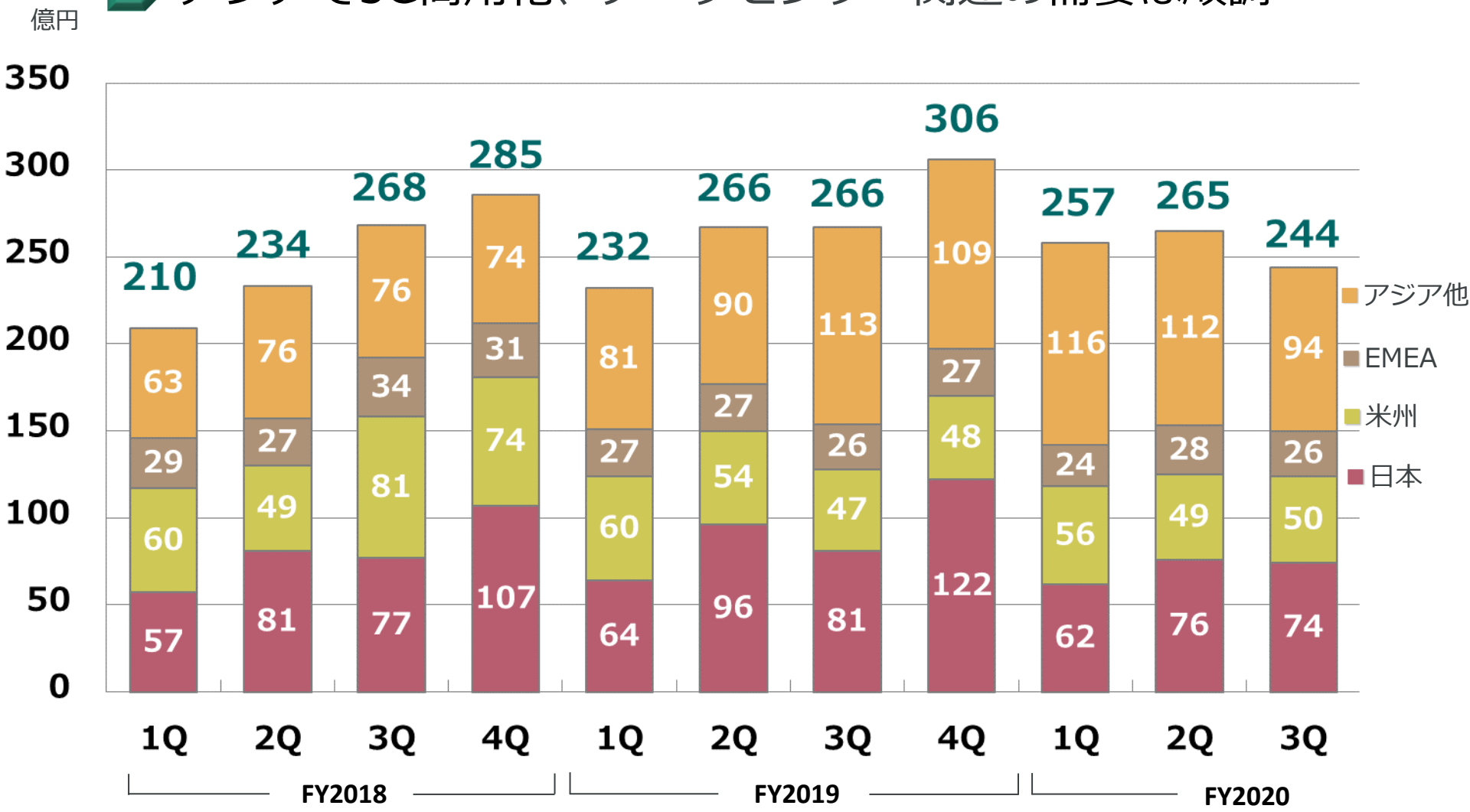


(注）値はそれぞれで四捨五入

Copyright© ANRITSU

Ⅱ - 6. 地域別売上高推移

アジアで5G商用化、データセンター関連の需要は順調



（注）値はそれぞれで四捨五入

Copyright© ANRITSU

Ⅱ- 7. キャッシュフロー

営業CFマージン率19.0%

FY2020 3Q（累計）
①営業CF：　146億円
②投資CF：　△ 38億円
③財務CF：△137億円

フリーキャッシュフロー
（①＋②）：　108億円

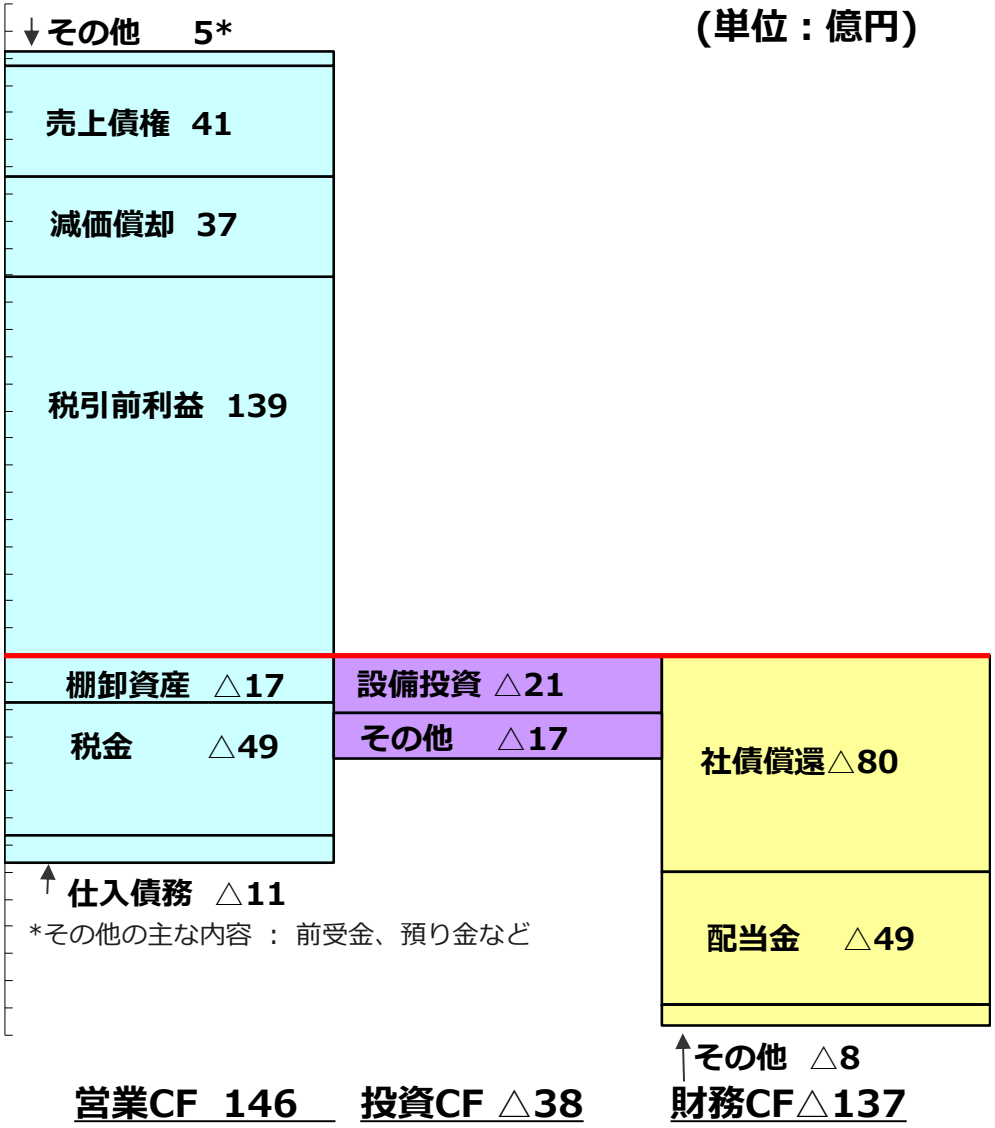
現金同等物期末残高
450億円

有利子負債高
64億円

（注）値はそれぞれで四捨五入

内訳

（単位：億円）



Copyright© ANRITSU

Ⅲ －1．2021年3月期　通期業績予想（連結）

連結業績予想　営業利益を上方修正

（単位：億円）

		2020/3期	2021/3期			
			通期予想		前期比	
		前期実績	4/27発表	1/28発表	増減額	増減率(%)
売上高		1,070	1,100	1,100	30	3%
営業利益		174	175	190	16	9%
税引前利益		172	175	190	18	11%
当期利益		134	135	145	11	8%
T&M	売上高	752	770	780	28	4%
	営業利益	151	155	170	19	12%
PQA	売上高	226	240	230	4	2%
	営業利益	13	18	15	2	17%
その他	売上高	93	90	90	△ 3	△3%
	営業利益	19	12	15	△ 4	△21%
調整額	営業利益	△ 9	△ 10	△ 10	△ 1	-

（参考）FY19 為替レート　：１米ドル109円、1ユーロ=121円
FY20 想定為替レート　：１米ドル105円、1ユーロ=120円

（注）値はそれぞれの欄で四捨五入（前期比増減額を除く）

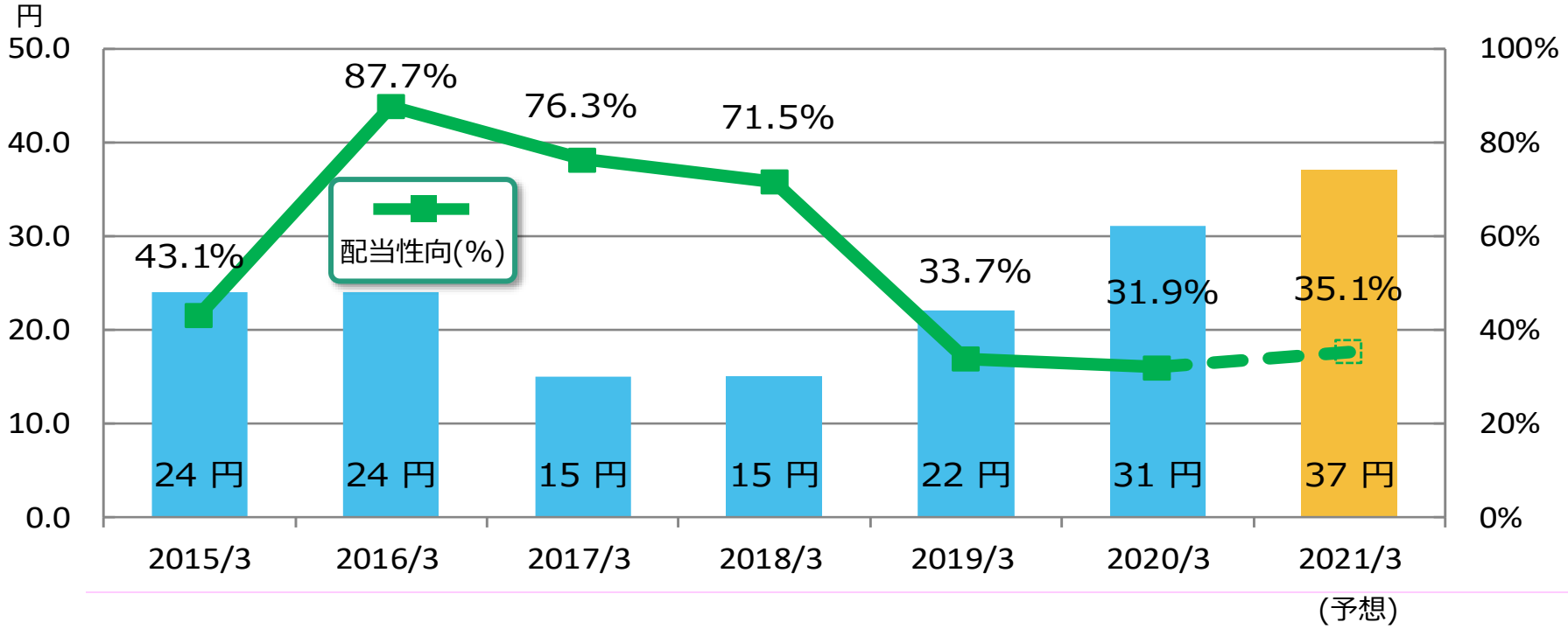
Copyright© ANRITSU

Ⅲ －2．配当予想について

年間配当
増 配

31円 → 37円
（中間配当15.5円、期末配当21.5円）

	年間配当	当期利益	配当性向	DOE	ROE
2021年3月期（予想）	37円	145億円	35.1%	5.2%	14.7%
2020年3月期（実績）	31円	134億円	31.9%	4.7%	14.9%



Copyright© ANRITSU

Ⅳ.　当社の取組について

アンリツ株式会社
代表取締役　社長

濱田　宏一

Copyright© ANRITSU

Ⅳ- 1.新型コロナウイルス感染症に関する当社の取組について

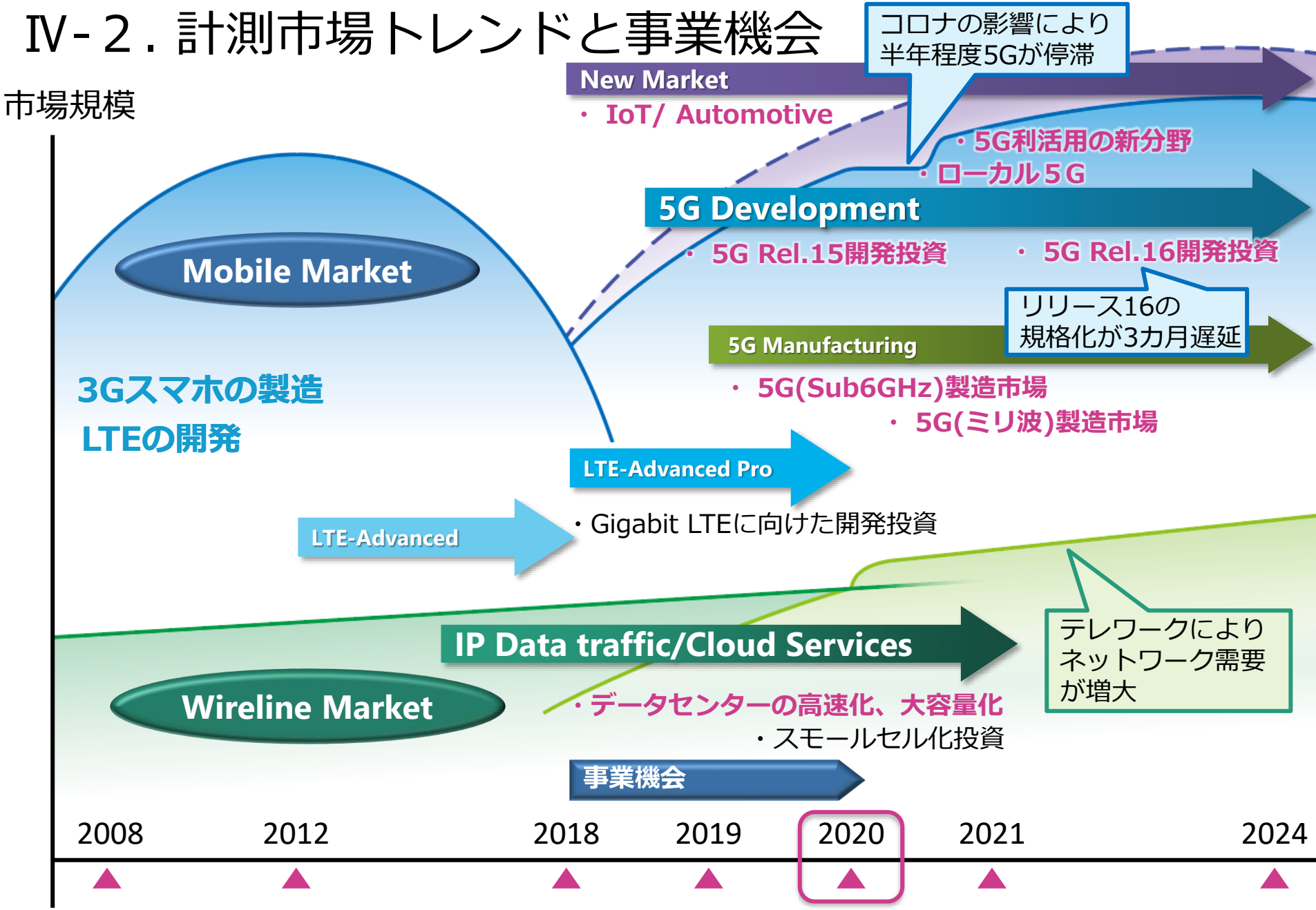
新型コロナウイルス感染症に罹患された皆さまと、ご家族および関係者の皆さまに謹んでお見舞いを申し上げると同時に、亡くなられた方々のご冥福を心よりお祈り申し上げます。

当社グループは、 2021年1月7日に発令された緊急事態宣言を受け、以下のような取り組みを行っております。

- テレワーク強化＋製造以外の全部門の原則出勤禁止
  出社人数削減率 70%としております。
- やむを得ず出社が必要な場合には、検温、手洗い、消毒、マスクの着用などを徹底し、最大限感染防止に努めております。
- 商品やサービスの供給に関しては業務を継続しております。

Copyright© ANRITSU

Ⅳ-２. 計測市場トレンドと事業機会



Copyright© ANRITSU

Ⅳ-３．「未来を作るモバイル通信とアンリツへの期待」

中国やアジアで5Gが先行しており日本が出遅れてる感があるが、日本の5Gはどのような方向性で進むべきか？

5Gではスマホがマーケットの全てではなくなり、バーティカルセクタ（5Gの利活用分野）が重要なマーケットとなる。この新たなマーケットに対して、社会課題先進国である日本は先陣を切れると考えている。

アンリツにもローカル5Gに関する引き合いが増えてきているが、どのような領域での活用が見込まれるのか？

例えば、神経を使い疲れる仕事などの自動化にローカル5Gの使用が見込まれる。ローカル5Gの事業運営主体は非専門家の場合も多くなるため、ベンダーによるサポートが重要になる。

アンリツはこれまでモバイルを計測技術の面でサポートしてきたが、今後どのような立ち位置が期待されているか？

今後、モバイルは通信基盤ではなく生活基盤としてのプラットフォームとなる。2030年のSDGs達成に向けたユースケースの議論がオープンでグローバルなフォーラムで行われており、このような表の場でのアンリツの活躍を期待している。

2020/12 Anritsu Technology Show：大阪大学 三瓶教授とアンリツ社長 濱田の対談より

Copyright© ANRITSU

Ⅳ-４．６Gに向けたアンリツの取組

300GHzプリセレクタ内蔵
のフロントエンド部

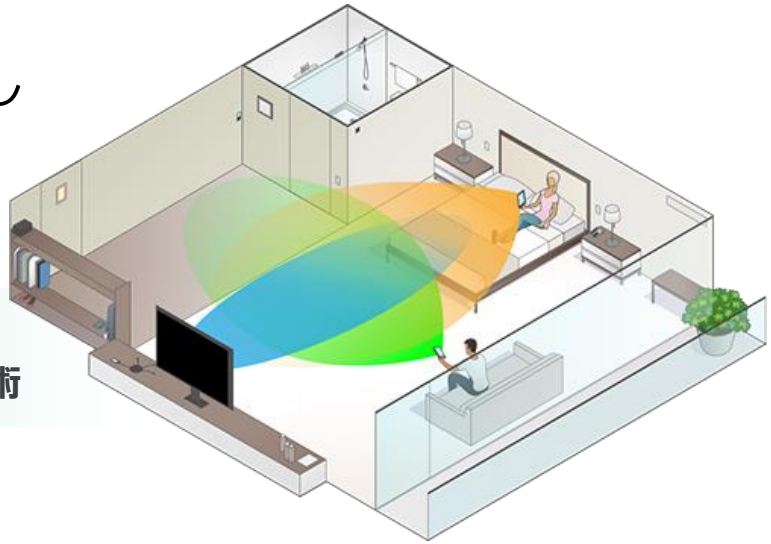
300GHzスペクトラムアナライザ(試作機)

■ 高周波の測定技術の探求

300GHz帯のスペクトラム測定技術の獲得
ミリ波・テラヘルツ波帯の無線信号の品質を測定

■ 電波干渉の測定技術の開発

複数の端末から出る電波を分離・可視化し
測定する技術の獲得
京都大学、NICTとの共同プロジェクト



開発予定の
電波の可視化技術

■ 次世代フォーラムへの参画

- IOWN Global Forum
- O-RAN ALLIANCE

Copyright© ANRITSU

Ⅳ-５．PGRE 30の進捗状況

PGRE 30：再生可能エネルギーの一つである太陽光発電の導入を進め、2030年頃までに太陽光自家発電比率を約1%から30%程度まで高める（アンリツ独自の取組）

2020年度：米国カリフォルニア州工場の太陽光発電設備が10月から稼働
2021年度：郡山第二工場の太陽光発電設備増設の着手を計画中

自家発電比率	FY2018		FY2020推		FY2021推
厚木	0.2%	→	0.7%	→	0.7%
郡山	4.4%	→	4.4%	→	4.4%
米国	0.0%	→	9.7%	→	23.3%
計	0.8%	→	4.3%	→	7~8%

※アンリツ気候変動対策活動 PGRE 30はPrivate Generation of Renewable Energy（再エネ自家発電）の略であり、「30」は達成時期の2030年頃と自家発電比率目標値の30%程度を意味します。

Copyright© ANRITSU

Anritsu

envision : ensure